

「若い力が創るまち」

五ヶ瀬町 矢川 和

「五ヶ瀬町をもっと盛り上げたい！」 そう思い、私は昨年春、山口大学を卒業し、地域おこし協力隊として生まれ育った五ヶ瀬町に帰ってきました。また、最近五ヶ瀬町には同世代の「わけもん」が多く帰ってきていると知り、「私もその一員として地元の為に何かしたい！」と思ったのです。

私は今、教育委員会で町立図書館の運営や管理・読書の普及をしています。社会人一年目で不安はありましたが、月に30ヶ所の集落を廻ることで、顔も名前も憶えていただき、地域の方々に支えられながら日々頑張っています。五ヶ瀬町内には1か所しか図書館が無く、町全体の読書環境が整備されていません。また、たった一つの図書館も知名度が低くて、書籍も多くはないため利用率は高いとは言えません。加えて、平日9時から5時のみの開館であるため、利用者も伸び悩んでいました。この現状を受けて、町内の読書環境を整え、利用者を少しでも伸ばし、図書館の知名度を上げるために移動図書館「ごかせマルシェ」がスタートしました。

地元の野菜や果物の移動販売車に本も載せて、一緒に各地域の集落を廻ります。「ごかせマルシェ」と名付け、各集落のいきいきサロンに出向き、高齢者を対象に実施することにしました。開始すると「本が読めるようになった。ありがとう」「買い物が大変だったけど来てくれて本当に助かっているよ」という喜びの声をいただきました。

ごかせマルシェは予想をはるかに上回る大盛況ぶりです。もともと本が好きだった方はもちろん、「80代だけど今から勉強を始めたい」と本を手取る方もおられました。また月1回図書館だよりの発行も始めたことで、徐々に図書館の知名度が上がってきています。図書館だよりに「おすすめの本」や「新刊図書の紹介」などを載せ、図書館が身近なものになり、興味を持っていただけるよう心がけています。昨年と比較してみると、なんと貸出利用者数は昨年の約3倍、新規利用者数は約30倍にも上り、やりがいを感じています。

ごかせマルシェをはじめて町の様々な問題が見えてきました。まず一つは、お年寄りや車を持っていない方の「移動手段」の問題です。五ヶ瀬町にはコミュニティバスが通っています。しかし、「バス停から家までが遠くてね」「重

いものを買うとバス移動が不便で」という声が多いです。もう一つは「図書館の開館時間」についてです。「仕事や学校で本を借りたくても借りられない」という本を愛する方々の思いをどう実現していくかを考えているところです。

県外で生活していたときは、有権者でありながらも、あまり社会のしくみを考えていませんでしたが、地元に戻り、地域に入ると、町の生の姿が浮かび上がってきます。五ヶ瀬町は年々人が少なくなり、高齢化が進んでいます。必ず投票し町の行政と共に生きることも大切です。しかし、私たち「わけもん」が町の課題に気づくこと、主体的に新しい創造力で地域づくりをすることが一番大事で、町を変える一歩になると私は考えます。

私は昨年9月に結婚し、夫と共に今月、五ヶ瀬町で唯一のバーを開店します。1, 2年後にはゲストハウスも開業予定です。今の五ヶ瀬町は若者の力によってだんだん活気づいてきています。そこで活動できることがとても楽しく「五ヶ瀬町って将来どうなるのだろう！」とわくわくしています。夢や希望を持って時代を作っていくのはいつだって若い力ですし、私たちのお店をこれからの町づくりの作戦会議の場にしていただけたらいいな、と思っています。地元のわけもんを共に「新しい魅力ある町」を築いていきます。